

『考える力』を考える

若手社員の「考える力」が低下していると、よく言われます。

しかし、これはビジネスに限ったことではないようです。

ある調査によると、学校に期待することの1位が『思考力を育てる教育をしてほしい』でした。
(おうち教材の森<https://naki-blog.com/study/>)

また、2016年に改訂された学習指導要領（文部科学省）では、『子供達に必要な3つの力』が整理されました。そして、その一項目に『**思考力・判断力・表現力等**』が挙げられました。

もはや、考える力の低下は、ビジネスシーンのみならず、日本全体の問題とも言えます。

では、なぜ、考える力が低下したのでしょうか。それは、**考えることは“大変”であり、それを解消したいニーズがあったから**ではないのでしょうか。ITの発展・普及により、解消が一気に進みました。例えば、どこかに出かける時、車ならカーナビ、電車ならアプリが道案内をしてくれます。自分で考える必要は大きく減少しました。さらに今後、AIが発展・普及すれば、報告書・企画書等々、これまで頭を悩ませてきたことが、自分で考えなくてもよくなってくるでしょう。

では、今後『考える力』は不要になるのでしょうか。そんなことはなく、むしろ考えなくてもよい時代になったからといって、その力が不要になるわけではありません。以下に考える力不足による弊害例を挙げます。

考える力低下による弊害例
1. 指示内容が正しく理解できない。
2. また、必要性等の本質まで理解できない。そのため納得が浅く、「わかりました」と言っても行動が継続しない
3. 言葉の意味を正しく理解しないまま使う
4. 相手の言っていることや情報を鵜呑みにする
5. 会議に参加しても、意見を言えない
6. 浅いリサーチしかしない（営業担当者）
7. 上位戦略・方針の意義を深く理解できない。そのため、現場実践しない
8. 反省が浅いので、同じ失敗を繰り返す
9. 有効な計画が策定できない

1～6は対面時であり、いちいちAIを使えないでしょう。やはり考える力修得は必須です。

しかし、問題なのは、“**考えること自体の必要性**”を理解できていない人がいることです。そのため、考えることが習慣になっていません。まさに、「何故、考えるのか」を考えていないのです。そういう人に、いくら「もっと考えてよ」と言っても、あまり効果はないでしょう。

弊社では、考える力を必要性から理解してもらい、かつ実践力を高めるお手伝いを数多く実施しています。

是非、ご興味ある方は、ご連絡を下さい。



> お問い合わせはこちら